

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「登美高生は『強いから優しい』＝「挑戦する強さがあるから、人を包む優しさを持てる」人材を輩出する。			
「全人教育(知識・技能だけでなく、人間性を調和的、全面的に発達させる教育)」という理念に基づき、創立 100 周年の歴史の中で、多彩な人材を社会に輩出し続けてきた高校として、「主体的な挑戦心」「自制心と回復力」「思いやりと気配り」を持った生徒を育成する。			
そのために			
授業・行事・部活動・地域連携等学校におけるあらゆる教育活動を通して			
1. 学習と行事・部活動を本気で取り組む	2. 希望する進路を実現する	3. 地域から愛され信頼される	学校を実現する

2 中期的目標

1. 高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現			
(1) 魅力ある教育課程の編成に注力し、同時に WEB サイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。			
ア スクールミッション・学校経営計画の実現状況・進行状況を、保護者・地域に、出来る限り早く正確に WEB サイト等を通じ発信する。			
(2) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む。			
ア 学力生活実態調査、授業アンケートを軸にした PDCA サイクルの徹底による授業改善を進める。			
イ 教師力（教科指導力＋人間力）を向上させる。－教育センター・他校種との連携、教育産業の活用を図る。			
ウ 「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。－アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。			
－発表の舞台を作る。(読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表、探究授業での発表など)			
※学校教育自己診断（保護者）における「登美丘高校に進学させてよかった」の肯定率（R3：94% R4：93% R5：93%）を R8 年度には 95%以上をめざす。			
※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（R3：84% R4：82% R5：88%）を、R8 年度には常時 88%以上をめざす。			
(3)進学実績の向上			
ア 「授業・自学自習（≡グループウェアを使用した家庭学習支援の充実）・講習」の一体化と充実を図る。			
イ 「自学力」の育成－もっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。			
ウ 「国公立志望・看護医療・公務員希望」－国公立進学希望者の進路を実現させるとともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。			
エ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた対応を進める。			
※国公立現役合格者（R3：4 名 R4：5 名 R5：7 名→R8 年度 10 名）、			
関関同立・現役合格者（R3：66 名 R4：81 名 R5：81 名→R8 年度 82 名）をめざす。			
2. 「自制心・回復力、主体性・挑戦心、思いやり、気配り」 ＝ 左記の非認知能力の醸成を図る。			
(1) 「主体的・挑戦的に行動する心」を育成するとともに、「人を思いやることの大切さ」を実感させる。			
ア 生徒会活動の自主運営－学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。			
イ 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進を図る。－魅力的な外部社会人との接点を持ち、自己実現について考える機会を創出する。			
ウ 国際理解の推進－コロナ禍において実現可能な、新しい国際交流の事業に取り組む。			
エ 人権尊重教育の取組み－多様な社会の中で、視野・視座の上がる教育を行い、思いやり・気配り力の醸成を図る。			
※学校教育自己診断（生徒）「将来の生き方や進路について考える機会がある」の肯定率（R3：93%、R4：93%、R5：94%）を R8 年度までに 95%以上めざす。			
※学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動ホームルーム活動は活発である」の肯定率（R3：86%、R4：84%、R5：88%）を R8 年度まで 90%以上をめざす。			
※学校教育自己診断（生徒）「人権や男女平等について学ぶ機会がある」の肯定率（R3：90%、R4：91%、R5：91%）を R8 年度まで常時 90%以上をめざす。			
(2) 教育相談体制の充実 SC を積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。			
※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（R3：84%R4：85%、R5：87%）を R8 年度には 90%以上をめざす。			
3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携			
(1) 機能的な組織運営			
ア 本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど「働き方改革」に取り組む。			
イ グループウェア、ICT を生かした機能的な校務運営に務める。			
ウ 100 周年記念事業への取組みの「振り返り」を軸に、学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。			
※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等で PDCA が実施されている」の肯定率（R3：58%、R4：52%、R5：64%）を R8 年度に 70%以上をめざす。			
(2) 地域連携の推進			
ア 脱 With コロナの環境下で、「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭」などへの新たな形での積極的な参加体制を構築する。			
※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動など保護者地域の人々に関わる機会がある」肯定率（R3：54%、R4：52%、R5：61%）を R8 年度に 65%以上をめざす			

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒の集計結果より】肯定回答平均 87%（R5 85%）と増加 肯定度について、3 年間の経年変化を見ると、34 項目中 25 項目が上昇した。肯定度も平均 87%と高水準を推移しており、生徒にとって日頃の学校教育活動が充実していることがうかがえる。気になる点は「22. 部活動に積極的に取り組んでいる」の項目の肯定度が 2%減少した。本校のスクールポリシーでも掲げている「放課後を学ばせる」部活動など生徒が主体的に活動することを掲げているので、積極的に部活動に取り組めるよう、広報活動及び生徒支援をしていく。 【保護者の集計結果より】肯定回答平均 84%（R5 82%）と増加 肯定度は昨年度より上昇（82%→84%）23 項目中、16 項目は上昇、2 項目減少、4 項目は横ばいとなっている。学校ブログなど教育活動を広く広報できたこと（登美丘 NOW、校長ブログ共に投稿数は過去最高を更新中）日頃から生徒の状況に合わせて、指導されている成果が数字で出ている。逆に減少した項目で注視するところは、I 5「部活動によく取り組んでいるようだ」、I 5 部活動については生徒同様に数値が減少しており、部活動の肯定度を下げないよう、取り組んでいきたい。	第一回 6 月 24 日（月） ○（授業）ICT を用いて、授業のユニバーサルデザイン化として「視覚化・構造化・協働化」を工夫していくこと。 ○（進路）国公立への進学者及び関関同立への進学者が伸びている。 ○ 中学校卒業生徒が減少する中、今後も多くの生徒が志願する学校として頑張っ てほしい。 第二回 9 月 14 日（土） ○行事の時期はしっかりと楽しんで、そこから切り替えて頑張っていく生徒たちだと思えた。それぞれの生徒に主役感があって、一般の来場者が気兼ねなく参加できるオープン感があって良かった ○公立高校も授業や行事、部活動を充実させ、子供たちをどう主体的に育てていくか。知識だけではなく、公立ならではの取り組みを考え、その姿をアピールしてほしい。

≪教職員の集計結果より≫肯定回答平均 89%（R5 84%）と増加 全体的に肯定度は昨年度とくらべると上昇している。（20 項目中 12 項目） I C T 化・システム変更、不登校生徒支援、入試オンライン出願や自動採点の導入など、学校業務の更新期にあり、一定の教職員に負担とならぬよう、教職員一丸となって、協力して乗り越えていきたい。	第三回 2 月 4 日（火）実施予定 ○学校教育自己診断の結果において、生徒の肯定率がアップしていることは教育内容の充実が一層進んでいる証であり喜ばしいことである。 ○スクールブランディングの取り組みを高校授業料無償化の状況の中で早い段階で進めていくことが大切である。 ○働き方改革を進めつつ、「生徒を主語」にした教育内容の充実を進めてほしい。 ○中高連携の取り組みを充実させることで、教育内容の周知をはかってほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現	(1) 魅力ある教育課程の編成に注力し、同時にWEBサイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。	(1) 夏休み時に発信した教育課程の整理・改善策決定と次年度に向けた改善計画立案する工程の策定、及び動画配信・LIVE配信を基本とする情報発信を行う。	(1) 保護者「進学させて良かった」94% [93%]	(1) 「進学させて良かった」94%(R5:93%)○
	(2) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む	(2) ア・進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月授業改善テーマ設定・7月第1回授業アンケート・11月公開研究授業・12月第2回授業アンケート/学校全体の授業力の向上をめざす。学力生活実態調査に基づき、本校生のつまづき科目や単元を学校全体で共有し、話し合いができるような土壌を作る。	(2) ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」89%[88%] ・授業アンケート質問(知識や技能が身についた)学校平均3.40[3.36] ・生徒自己診断「教え方に工夫」86% [85%] 「発表する機会」90% [89%] ・学力生活実態調査でAS10%以上・CD20%以下 [AS8.2%・CD20.2%]	(2) ア・わかりやすい授業 88%(R5:88%)△ ・(知識や技能が身についた)学校平均 3.43 (R5:3.36 R4:3.38)◎ ・「教え方に工夫」87%(R5:85% R4:81%)○ ・「発表する機会」 90%(R5:89% R3:87%)○ ・実態調査 AS10.4%○ ・CD20%22.8△ [AS8.2%・CD20.2%] R6 AS10.4%(1年 11.3% 2年 15.6% 3年 4.4%) R5 AS8.2%(1年 9.1% 2年 8.7% 3年 6.6%) R4・AS7.3%%(1年 9.7% 2年 5.1% 3年 7.1%) R6 CD22.8%(1年 16.5% 2年 13.0% 3年 39.6%) R5 CD20.2%(1年 13.3% 2年 17.8% 3年 29.7%) R4・CD30.3%(1年 18.1% 2年 43.8% 3年 29.4%) イ「1人1台端末、クロームブックの配布により、自分の端末からの利用が進みましたか」96%(R5 89% R4 72%)◎
	(3) 進学実績の向上	イ・推進費で取得したICT機器等を利用し、授業・家庭でICT機器を使った学習を行う。 ウ・発表のある授業(英語プレゼン大会等)を充実させ、発表力を養う。 (3) ア・「授業・自学自習(≡グループウェアを使用した家庭学習支援)の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・「希望別進路指導」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 ウ・学習指導要領改訂、高大接続改革に対応した取組みを進める。	イ・ 生徒1人1台端末の活用を推進している。90%[89%] ウ・各教科プレゼンの取組みの内容を向上させる (3) ア・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」57%[56%] イ・進学実績 国公立現役合格者10名以上 [7名] 関関同立現役合格者82名以上 [81名] 産近甲龍現役合格者200名以上 [199名] ウ・大教大コンソーシアム参加	ウ 英語プレゼン大会(2/10)・情報科プレゼンは授業内で発表○ (3) ア「1時間以上」63%(R5:56% R4:52%)◎ イ 国公立現役合格者4名(R5:7名)△ 関関同立現役合格者56名(R5:81名)△ 産近甲龍現役合格者161名(R5:199名)△ *3月23日段階 ウ 大教大コンソーシアム4名参加 ○ 授業観察シートの作成、授業見学月間の設定、授業充実研修など、組織的な授業充実の取り組みを行うことで授業力向上につながっている。丁寧な進路指導を行うことで生徒の進路意識の醸成につながった。

府立登美丘高等学校

非認知能力の醸成を図る 2. 「自制心・回復力 主体性・挑戦心 思いやり、気配り」 Ⅱ 左記の	(1)「主体的・挑戦的に行動する力」を育成するとともに、「人を思いやることの」を実感させる (2)教育相談体制の充実	(1) ア・生徒会活動の自主運営に取り組む。 イ・自主自立育成のキャリア教育を推進する。 ウ・国際交流事業の実施。 エ・計画的な人権尊重教育に取り組む。 (2) ア・学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SC との積極的な連携を図る。	(1) ア・生徒自己診断「生徒会・HR 活動が活発である」89%[88%] イ・生徒自己診断将来の生き方について考える機会がある 95%以上 [94%] ウ・交換留学事業の継続実施 エ・人権学ぶ機会 92%[91%] (2) ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」88%[87%]	(1) ア・生徒会 HR 活動 89%(R5:88% R4:84%)○ イ・考える機会がある 96% (R5:94% R4:93%) ○ ウ・ケントリッジ高校との交換留学実施○ エ・人権学ぶ機会 95%(R5:91% R4:91%)◎ (2) 親身な先生 90% (R5:87% R4:85%) ◎ 生徒主体の登美高祭(体育祭・文化祭・歌合戦)を充実した内容で実施できた。国際交流事業も実施することができた。当事者との出会いを大切にした人権学習を実施できた。教育相談体制の充実を図り、生徒支援につなげている。
	(1)機能的な組織運営 (2)地域連携の推進	(1) ア・本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ、教職員一人ひとりの意識改革を推進、部活動方針に沿った取組など「働き方改革」に取り組む。 グループウェアを導入、学年団と分掌等の連携強化を図り、業務の効率化に取り組む。 イ・グループウェア、ICT を生かした機能的な校務運営に務める。 ウ・PTA、同窓会との連携を強め、創立 100 周年から次の目標を設定する。 (2) ア・コロナ禍でできる、新たな地域活動への積極的参加「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し」、地域の活性化に貢献する。	(1) ア・教職員自己診断「情報交換」74%[73%] 「PDCA」65%[64%] 教職員の時間外在校等時間の平均を前年度より減少させる。 [35h30m] イ・会議での ICT/ペーパーレスの継続 ウ・アフター100周年・次に進むスローガン等を決める (2) ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々と関わる機会がある」62%[61%]	(1) ア・「情報交換」79%(R5:73%、R4:70%)○ 「PDCA」64%(R5:64%、R4:52%)△ 「時間外在校時間等平均」29h53m (R5:35h30m)○ イ ペーパーレス会議の継続○ ウ スローガン「登美高生は、強いから優しい」を明確化することとした。 スローガンの認知 95% (R5:89%、R4:82%)○ (2) ア・保護者・地域と関わる 54%(R5:61%、R4:52%)△ グループウェアの活用により、情報交換を密にすることで機能的な校務運営につながった。写真の充実したホームページへとリニューアル、「登美丘NOW」、「校長ブログ」の更新など、広報の充実に努めた。地域との連携の取り組みを一層進めたい。